

MIYU RELATIONS



宮城大学 地域連携センター

MIYAGI UNIVERSITY
Regional Liaison Center

Contributing to the development of our region

—

Collaborative research & contract projects

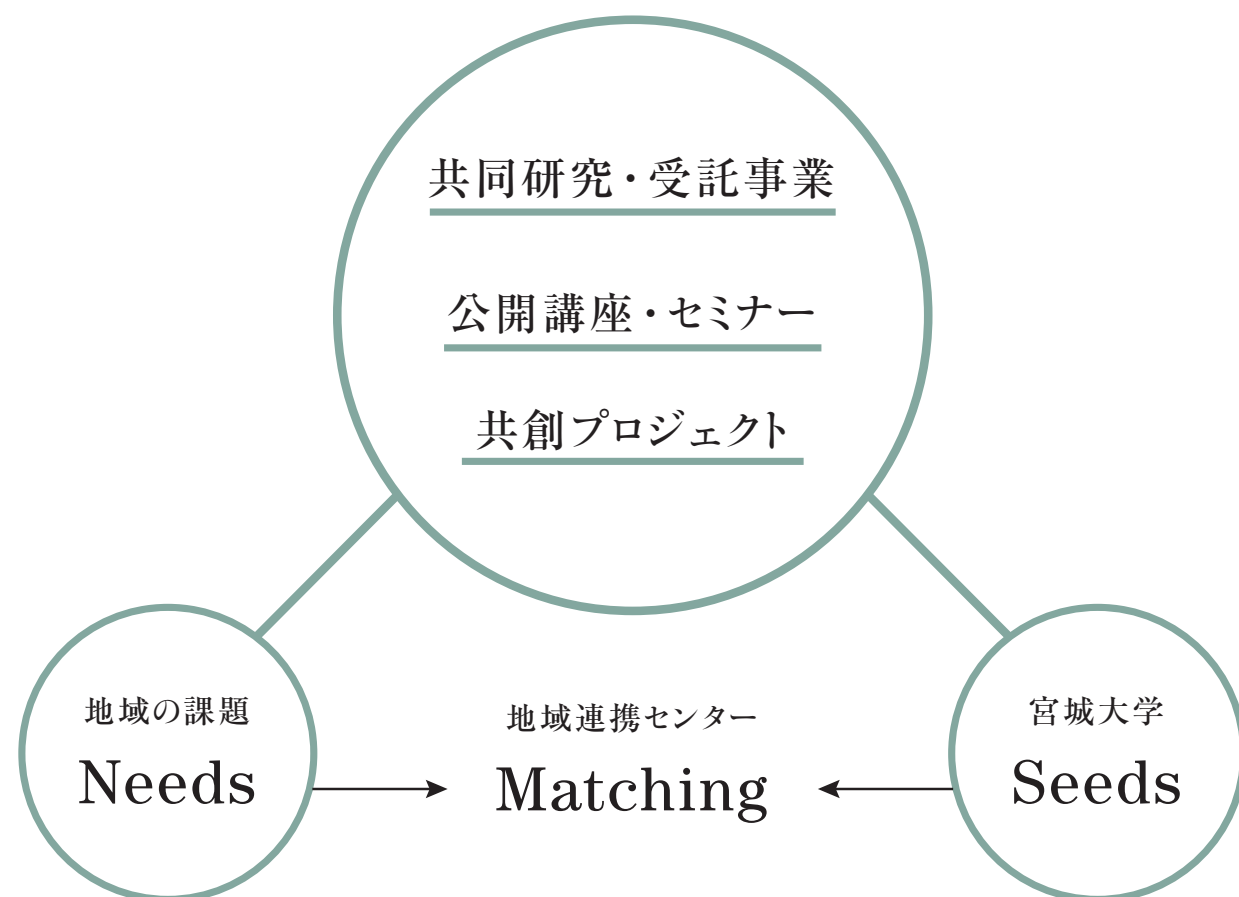
Open lectures & seminars

Co-creation projects for sustainable society

地域の発展に貢献，多彩に連携をコーディネート

企業や地方自治体・機関・団体のニーズや課題に対して，地域連携センターは宮城大学の多彩な人材・研究・技術・ノウハウなどを活かしながら，ともに実践することでイノベーションや活性化の解決策を生み出していきます。

そして，地域産業の発展や魅力的な地域づくりなど地域の可能性を広げるために，従来の手法や領域に留まることなく，さまざまな分野での連携に取り組み，宮城大学のミッションの一つである地域への貢献を目指します。



Supporting regional developments in Miyagi, Tohoku & Japan

地域連携センターのコーディネーターが中心となり，あらゆるステークホルダーと連携し，地域の発展に貢献します。



コーディネーター

4名の専任コーディネーターが地域連携センターに常駐し，それぞれの専門分野を生かしてご相談に対応します。また，各学群にも教員からなる兼務コーディネーターを配置し，連携を強化しています。



MYU Seeds

学外との連携をスムーズに行うため，教員のシーズをWebにて公開しています。



地域連携センター長 メッセージ | Message

東北地方では今，若者の流出による過疎化と少子高齢化の進行，産業・経済の低迷など多くの課題が語られています。平成23年に発災した東日本大震災も大きな爪痕を残しました。しかし，震災から8年が経過し，「元気な東北」，「元気な宮城」の姿を世界中に発信していく時期に来ているのではないのでしょうか。地域が一丸となって様々な課題に取り組み，地域の活力を取り戻していかなければなりません。宮城大学は地域の皆様とともに，これらの課題に取り組んで参ります。地域連携センターは，宮城大学の教育・研究資源とその成果を用いて，産学官金，地域との連

携を図り，地域に貢献することを目的に設立されました。地域の企業，自治体，学術・研究機関，金融機関等の連携のためのコーディネート力を発揮し，地域に頼られる存在となることを目指しています。そしてその活動の中で得られた成果を活かし，本学の教育・研究をより一層深化させ，地域と大学の連携による地域活性化の相乗効果を期待しています。地域の求める課題（ニーズ）と本学の持つ資源（シーズ）をつなぎ，企業や自治体の活動を支援し，地域経済の活性化，そして誰もが住みよい地域社会を創生していきたいと考えています。どうぞお気軽にご相談ください。



地域連携センター センター長
舟引敏明教授

事例紹介

共同研究・受託事業

本学の教員が有する研究シーズを活用し、企業や地方自治体が抱える課題の解決を支援します。共同研究においては、コーディネーターが教員とのマッチングや契約、進捗管理を行うとともに、研究資金の獲得に向けて各種外部資金の情報提供や申請支援を行います。受託事業においては、コーディネーターが企画段階から相談者と連携して、体制づくりや教員とのマッチングを図り、より良い実践計画を作成します。各種調査、グループワーク、フィールドでの実践等を支援し、さまざまなステークホルダーと連携しながら課題解決に取り組み、地域の発展に貢献します。

1. 東松島市「森の学校プロジェクト」
2. 山元いちご農園「いちごワイン」
3. フィッシャーマンジャパン「ウニの養殖プロジェクト」
4. 東北博報堂「東北ロッケン研究所」
5. 柴田町「ユズの6次産業化プロジェクト」
6. 西松建設「ペーパースラッジ灰の地盤改良材としての利用に関する研究」



公開講座・セミナー

宮城大学は地域に開かれた大学として、本学の教育や研究の成果を広く地域の方々に還元するため、公開講座を開催しています。講座では、本学教員が健康づくりや、地域の歴史、食品の美味しさ・安全など身近なテーマをわかりやすく講義します。また、企業や地方自治体との連携を深めるためのシンポジウムやセミナーを開催しています。大和キャンパス交流棟2階には、地域との交流拠点として多目的に利用できるオープンスタジオ“PLUS ULTRA-”を設けており、研修会やワークショップなどを行っています。



共創プロジェクト

宮城大学の3学群の学生が参画し、多様なセクターとの連携によるプロジェクトの創出を進めています。「産官学金」による連携に加えて、地域コミュニティやNPOといった多様な組織のネットワークを形成し、地域社会の課題に対して、各セクターが持つ技術やアイデアを集結しながら解決を目指すとともに、新しい地域の魅力を共に作り出すプロジェクトを生みだします。これまで、地域イベントにおける地場産品のメニュー開発と販売実践、震災を契機に新産業の創出を企図したオリーブの産地化とオリーブ葉の飼料化、町民のアイデアを活かした空間づくりといった地域資源を活用した取り組みが共創プロジェクトとして生まれています。

1. Reborn-Art Festival
「コミュニティプランナープログラム」
2. 石巻市「北限オリーブプロジェクト」
3. 新澤醸造店「大学生の純米大吟醸」
4. 利府町「tsumikiプロジェクト」
5. 宮城県立こども病院「MOBILE MUSEUM」



相談手順 | Consultation procedure

1 相談 Consultation

コーディネーターが相談者から相談事項をお聞きます。相談内容の秘密は厳守します。

4 契約 Contract

具体的な対応策が得られた場合は、共同研究や受託事業など実施に向けた契約を締結します。契約では、実施内容のほか期間や予算を設定します。

2 検討 Examination

学内にて相談事項と教員の専門分野とのマッチング性を考慮して、教員による対応の可能性について検討します。

5 実施 Implementation

契約内容に従って、調査や研究を実施します。コーディネーターは情報を共有しつつ進捗管理を行います。

3 マッチング Matching

コーディネーターが相談者と教員をマッチングし、相談事項への具体的な対応策について、ともに検討します。

6 展開 Development

コーディネーターは調査や研究結果の報告にとどまらず、活動の発展へ向けて外部資金の獲得など必要な支援を行います。



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY



宮城大学 地域連携センター

発行：2019 年 8 月 発行者：宮城大学 地域連携センター

TEL: 022-377-8319 FAX: 022-377-8421 E-mail: chiren@myu.ac.jp